保健体育科学習指導案

日　時　平成２９年6月１日（木）公開授業Ⅱ
学　級　岩手大学教育学部附属中学校
　　３年CD組（男子１４名　女子２４名）
会　場　体育館
授業者　加　賀　智　子

１　単元名　　球技　ネット型「バレーボール」

２　単元について

（１）教材観

バレーボールは，ネットをはさんで相対する２チームが，サービス，パス，トス，スパイク，ブロック，レシーブなど，主に手や腕を用いてボールを打ち合い，得点を競い合うスポーツである。サービスやアタックを工夫して相手のミスを誘ったり，戦術を工夫して相手のミスを誘ったり，戦術を工夫して攻めたりして，いろいろなチームと勝敗を争うところに楽しさがある。

相手チームとの身体接触が少ないことから，年齢層も広く親しまれるスポーツでもある。また，相手チームにボールコントロールを邪魔されることもないため，チームの作戦が立てやすい。その反面，ボールをボレー（はじく）する感覚は普通の運動経験ではあまり体験することがなく，ボールコントロールに苦労することが多い。そのことで苦手意識を強くしてしまう傾向がある。

しかし，チームみんなで協力して技能を高めたり，チームの作戦について話し合ったり，練習に励んだりすることで，協力，参画，共生の態度を高めることができる教材である。

対象の生徒は，３年生であること，１年生の時にバレーボールの特性に触れていることから，今回の単元では「三段攻撃」を用いたゲーム展開を学習する。コートやネットの高さ，ボールコントロールについての条件を工夫し，タスクゲームで「三段攻撃」を表出させやすくしながら，達成感を味わわせることにより，生涯にわたってスポーツを楽しむ資質を身に付けさせていきたいと考える。

（２）生徒観

対象の生徒は１年時にラリーを続けることをねらいとしたタスクゲームを中心に，ネット型の授業を学んだ。
３年時の事前のバレーボールに対する意識調査において，「バレーボールを行うことが好きか」尋ねたところ，以下のような回答だった。

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	嫌い
１３人（３４％）	１２人（３２％）	１０人（２６％）	３人（８％）

「好き，どちらかというと好き」と回答した生徒は７割近い生徒であった。理由としては「ボールがつながるのが楽しい」といった内容が多く，ある程度ボールコントロールができる生徒がそのように回答していると感じた。一方，「どちらかというと好きではない」や「嫌い」と回答した生徒は「運動は好きだけど，バレーはうまくないから」とやはりボールコントロールができるかどうかで回答している。

このことから，ボールコントロールにストレスをかけずにみんなが授業を行えるようにする工夫が必要である。そして，「三段攻撃」で攻撃することをねらっても，バレーボールの特性が味わえるように，実態に即したルールや条件のタスクゲームを組み入れていくことが必要と考える。

また，チームプレーを創りあげていくためにも，チーム内で試行錯誤を繰り返させながらチームワークと仲間と連携した動きを高めさせていきたい。

この単元を通して，チームの状態や作戦について話し合ったり，仲間と協力して練習することで，個やチームの技能が高まることを実感させ，本校保健体育科がとらえる「学びの本質」を身に付けさせていきたい。

（３）「学びの本質に迫る指導とその評価」について

保健体育科における「学びの本質」とは，「課題解決に向けて，知識を実践的に活用し，運動の行い方を工夫し，スポーツとのかかわり方を楽しむことができる力」を身につけること，ととらえる。めざす生徒の姿として，「課題に向かう中で『問い』を持ち続け，これまでに得た知識を活用し，運動の行い方を工夫し，運動とのかかわり方を見つけ，運動の楽しみに気付くことができる生徒」と定義する。生徒が主体的に学習に臨み，様々な活動を通して思考・判断・表現をし，日常生活の中で活用できる力として育成していく必要がある。本研究では，特に５つの視点に重点を置くこととする。

①　課題を把握する力，課題設定力
・目指す動きと今自分がした運動の比較による複数の「違い」を把握することができる力
・目標とする動きと自己の動きの違いをとらえ，改善すべきポイントを見つける力
・目指す動きに近づけるためにもっとも重要だと考えられるものを見つけ出し，それを課題として設定する力

②　練習方法を選択する力
運動実践の場面で，自己の課題に応じて適切な練習を選ぶ力

③　**コミュニケーション力**
・お互いに出来映えを相互評価し，よりよいものを目指す力
・作戦などの話し合いの場面で，合意を形成するための適切なかかわり方を見つける力
・思考，判断したことを，根拠を示しながら相手に伝える力

④　**自分の学びを振り返る力（メタ認知）**
学習を振り返り，どのような力が身についたかということを自覚的に振り返り，次の場面に役立てることができる力

⑤　**運動の特性をとらえる力**
各種目の運動のそのものの本質的な価値をとらえることができる力

学びの本質に迫る手立ては以下の通りである。

（1）**「問い」が生まれる学習課題の工夫**
①授業の導入では，生徒自身が自分のこととしてとらえるように，前時の振り返りを活用し，自分や学級の仲間の実態に基づいた資料提示をし，既習内容を想起させる。【前時の振り返り提示】
②iPadを活用し，生徒が映像で目指す動きと自分の動きとの違いを把握させる。【iPad活用】

（2）**生徒の学びを深める過程の追求**
①学びを深めるかかわり合いの工夫。【学習形態の工夫】
②生徒の「問い」が継続する教師の手立て。
（導入）→「既習内容」や「概念」を問う。
（展開１）→「根拠」，「方法」，「関連」を問う。
（展開２）→「よりよい考えや表現を求めて」問う
（終末）→「よさ」，「根本概念」を問う。
③学びを深める評価
・単元計画では，評価の機会に着目した「単元構造図による指導内容と学習の流れ，評価機会と方法の計画」を作成する。
・単元中盤での生徒の課題，目標設定の確認。

３　単元の指導目標及び評価規準

（１）指導目標
・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。
（技能）
・技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解し，自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（知識，思考・判断）
・自主的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，自己の責任を果たそうとすること，作戦などについての話合いに貢献しようとすることなどや，健康・安全を確保することができるようにする。
（態度）

（２）評価規準
・バレーボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう，自己の責任を果たそうとすること，作戦などについての話し合いに貢献しようとすることなどや，健康・安全を確保して，学習に自主的に取り組もうとしている。
【運動への関心・意欲・態度】
・自己やチーム課題を把握し，その課題に応じた運動の取り組み方を工夫するとともに，目的に応じて他者に伝えている。
【運動についての思考・判断】
・「拾う，つなぐ，打つ」といった一連の流れで攻撃を組み立て，相手側コートの空いた場所をめぐる攻防を展開するための個人技能や仲間と連携した動きを身に付けている。【運動の技能】
・技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法，試合の行い方を理解している。
【運動についての知識・理解】

４　単元の指導計画・評価計画

（1）指導計画（１６時間）

時数	学習内容	活動内容
1	○授業のねらいや約束，学習計画を理解すること特性や歴史について理解すること。（知識①） ○学習に自主的に取り組もうとすること。（態度①） ○健康・安全に留意すること。（態度②）	・オリエンテーションを行い，バレーボールの授業のねらいや約束，特性や歴史，学習計画を学習シートに記入する。
2	○仲間と連携するための動きのポイントを言ったり書き出したりすること。（思考・判断①）	・『キャッチバレー①』（レシーブ・トス・アタックすべてキャッチ）を行い，「三段攻撃」を行う。 ・「三段攻撃とは何か」という視点から，これから身に付けていきたいことを学習シートに記入する。
3	○トスの行い方を理解すること。（知識②） ○トスの行い方を身につけること。（技能①）	・トスの行い方を確認し，ポイントを練習する。 ・トスの行い方を学習シートに記入する。
4	○自己の役割を果たし，ゲームを行うこと。（態度③）	・『キャッチバレー②』（レシーブキャッチ）を行い，連携した動きの中でトスを実践する。
5	○スパイクの行い方を理解すること。（知識③） ○スパイクの行い方を身につけること。（技能②）	・スパイクの行い方を確認し，ポイントを練習する。 ・スパイクの行い方を学習シートに記入する。
6	○三段攻撃をすること。（技能③） ○作戦などの話し合いに貢献すること。（態度④）	・『キャッチバレー②』（レシーブキャッチ）を行い，連携した動きの中でスパイクを実践する
7	○試合の行い方を理解すること。（知識④）	・『ワンキャッチバレー』を行う。 ・試合のルールについて学習シートに記入する。
8	○コンビネーションプレーの行い方を理解すること。（知識⑤）	・ローテーションを再確認するともに，コンビネーションプレーの行い方について確認する。 ・コンビネーションプレーの行い方について学習シートに記入する。
9	○コンビネーションプレーのポイントを見付けること。（思考・判断②）	・『ワンキャッチバレー』を行う。 ・コンビネーションプレーを行うためのポイントを学習シートに記入する。
10 本時	○よりよく作戦を実行するためのポイントを見付けること。（思考・判断③）	・『ワンキャッチバレー』でコンビネーションプレーを活かした作戦を実行する。 ・よりよく作戦を実行するためのポイントを学習シートに記入する。
１１	○個やチームの状態をとらえ，有効な練習方法を選択すること。（思考・判断④）	・前時のゲームから，個やチームの状態をとらえ課題解決のための練習方法を選び，練習を行う ・課題と練習方法，練習方法が課題解決のために妥当であったか学習シートに記入する。
１２	○運動観察の方法を理解し，観察から分かったことを言ったり書き出したりすること。（知識⑥）	・リーグ戦①を行う。 ・観察の仕方と視点，観察から分かったことを学習シートに記入する。
１３ １４ １５	○作戦を見直すこと。（思考・判断⑤）	・リーグ戦②～④を行う。 ・作戦が実行できたか，チームに合った作戦であったか学習シートに記入する。
１６	○単元を振り返り，学んだこと，身についたことを書き出すこと。（知識⑦） ○球技を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付けている。（思考・判断⑥）	・リーグ戦⑤を行う。 ・単元を通して学習したこと身についたことや球技を継続して楽しむための自己に適したかかわり方について学習シートに記入する。

（２）学習に即した評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能運動の技能	運動についての知識・理解
1	①学習に自主的に取り組もうとしている。 ②自分や仲間の健康・安全を確保している。 ③三段攻撃における自己の役割を果たそうとしている。 ④作戦などの話し合いに貢献しようとしている。	①仲間と連携した動きのポイントを見付けている。 ②コンビネーションプレーを行うためのポイントを見付けている。 **③よりよく作戦を実行するためのポイントを見付けている。** ④自分やチームの課題をとらえ有効な練習方法を選択している。 ⑤作戦が実行できたか，チームに合った作戦であったかを指摘している。 ⑥球技を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。	①安定したトスを上げることができる。 ②ジャンプの最高点でスパイクを打つことができる。 ③役割に応じたボール操作や仲間と連携した動きができる。	①授業のねらいや約束，学習計画，特性や歴史について，学習したことの具体例を挙げている。（知識・理解） ②トスの行い方の具体例を挙げている。 ③スパイクの行い方の具体例を挙げている。 ④ゲームのルールや運営の仕方について学習した具体例を挙げている。 ⑤コンビネーションプレーの行い方について学習したことの具体例を挙げている。 ⑥運動観察の方法について理解したことを言ったり書き出したりしている。 ⑦単元を通して学習したことの具体例を挙げている。

（3）単元構造図による指導内容と学習の流れ，評価機会と方法の計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
学習の流れ	運動の特性や学習のねらい計画を理解する	（準備運動、今日の学習内容の確認） フットワーク・基本スキル練習 三段攻撃を味わう	（準備運動、今日の学習内容の確認）　フットワーク　基本スキル練習 キャッチバレー 三段攻撃に必要なスキルを習得していく				ワンキャッチバレー チームで協力し作戦を高めていく							リーグ戦 チームの作戦を実行し、三段攻撃で攻撃する		
指導と評価の機会 技能	「拾う、つなぐ、打つ」といった一連の流れで攻撃を組み立て、相手側コートの空いた場所をめぐる攻防を展開するための個人技能や仲間と連携した動きを身に付ける。															
			①安定したトス		②最高点でスパイク	評価 ③三段攻撃						評価			評価	
態度	バレーボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう，学習に自主的に取り組む。															
	①自主的 ②健康安全		評価	評価 ③自己の役割		④話し合いに貢献					評価			評価		
知識	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解する。															
	①特性歴史ねらい約束学習計画 評価		②トスの行い方 評価		③スパイクの行い方 評価		④試合の行い方 評価	⑤コンビネーション 評価				⑥運動観察の方法観察 評価				⑦学んだこと 評価
思考・判断	自己やチーム課題を把握し，その課題に応じた運動の取り組み方を工夫するとともに、目的に応じて他者に伝えている。															
		①動きのポイント 評価							②コンビネーションプレーポイント 評価	③よりよい作戦実行のポイント 評価	④有効な練習方法 評価		⑤作戦見直し 評価	⑤作戦見直し 評価	⑤作戦見直し 評価	⑥かかわり方 評価
評価機会と方法 関意態	①		❶													
	②			❷												
				③							❸					
						④								❹		
思判		①☆							②☆	③☆	④☆		⑤☆	⑤☆	⑤☆	⑥☆
技能			①			❶										
					②							❷				
						③									❸	
知理	①☆		②☆		③☆		④☆	⑤☆				⑥☆				⑦☆

【評価方法】

○指導の機会　←●→ 観察評価期間、VTR による判断　☆学習プリントなどによる評価・定期ﾃｽﾄ活用

５　本時について（１０/１６時間）

（１）主　題　　球技「ネット型」バレーボール

（２）指導目標

〇チームの状態を把握し，よりよく作戦を実行するためのポイントを見付けることができるようにする。（思考・判断）

（３）評価規準

〇チームのゲームの様相から，よりよく作戦を実行するためのポイントを見付けている。

【運動についての思考・判断】

（４）指導の構想

前時の学習を生かし，チームの作戦内容をより高めていくためのポイントを把握する時間とする。自分たちが行いたい作戦のために，チームで高めていきたいポイントを見付けさせる。決して，作戦がうまくいかないことが「個人のボールコントロールスキルによる」という視点にならないよう指導していきたい。

①　導入について

前時に確認したコンビネーションプレーのポイントを想起させ，チームの作戦が高まっていくためのポイントを見付ける時間であることを確認し，終結で振り返る視点を持たせる。

②　展開について

チームごとの活動でフットワークから行わせていく。それぞれの動きをしっかり行わせ，作戦につながる動きを高めていくことをねらう。基本スキル練習ではボールコントロール力の高まりをねらう。

「ワンキャッチバレー①」を行い，各ローテ―ジョンごとの作戦を実行させていく。客観的に自分たちの攻撃を振り返られるよう「観察記録」を行わせる。その記録などを用いて状況を確認し，「ワンキャッチバレー②」に取り組ませる。ここでは記述の「観察記録」に加え，ｉＰａｄでの撮影も行う。

③　終結について

導入で確認した視点「よりよく作戦を実行するためのポイント」を個人で書き出させる。数名に発表させ，次時にはそのポイントを練習することを確認する。

（５）本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時間(分)	■「学びの本質に迫る指導と評価」にかかわる留意点
導入	1　準備運動を行う。 2　集合，あいさつ，健康観察を行う。 3　本時の学習課題を把握する。 前時の学習を振り返り，コンビネーションプレーのポイントを想起する。 **よりよく作戦を行うためのポイントを見付けよう** 4　本時の流れの確認	5	■問いが生まれる学習課題の工夫 →コンビネーションプレーのポイントを想起し，チームの作戦が高まっていくためのポイントを見付ける時間であることを確認する。
展開	5　フットワーク ブロックジャンプ→バック走→斜め前ダッシュ→ バックステップ→サイドステップ→スパイクジャンプ→ ブロックジャンプをくり返す 6　基本スキル練習 ①直上オーバーハンドパス②直上アンダーハンドパス ③ダイレクトパス④アタックレシーブ⑤ミート練習 7　ワンキャッチバレー①を行う 自チームにボールを出すところから攻撃する練習を行う。ローテーションごとに練習する。「観察記録係」を設定し，攻撃状況を記録する。すべてのローテーションを行う。 8　チームでミーティングをする。 記録を用いて状況を確認し，よりよい動きとなるためのポイントをチームで話し合う。 9　ワンキャッチバレー②を行う。 相手コートからの投げ入れから攻撃を行う。「観察記録」と「iPad撮影」も行い，ゲーム記録を残す。	３８ (43)	■学びを深める「かかわり合い」の工夫 →よりよい動きとなるためのポイントをチームで話し合う。 ■生徒の「問い」が継続する教師の手立て →「よりよい動き」を問う。
終結	10　本時のまとめを行う。 個人で「自チームがよりよく作戦を行うためのポイント」を書き出し，発表する。教師の評価を聞く。 11　整理運動を行う。 12　あいさつを行う。	7 (50)	■生徒の「問い」が継続する教師の手立て →「根本概念」を問う。 ■学びを深める「かかわり合い」の工夫 →個で振り返る。